

「人間力」の育成をめざす 「かとう夢プラン」の推進

地域の
特色ある
活動

1 はじめに

加東市は、人口約4万人（H29.11末現在）であり、兵庫県中央部やや南よりに位置し、加古川水系を中心に広がっています。その水は、昔から農業用水として活用されており、多くの生物に生息の場を与えるなど、豊かな自然を保っています。

近年では、中国自動車道の開通をきっかけとして都市化、工業化が進み、人々の暮らしが大きく変わってきました。

平成18年3月20日、社町、滝野町、東条町は合併して加東市となり、「山よし！技よし！文化よし！夢がきらめく☆元気なまち 加東」の実現のために新しい歴史をスタートさせています。

加東市には、現在、国立大学法人兵庫教育大学附属の幼稚園、小学校、中学校があります。また、公立として、幼稚園が2園、小学校が9校、中学校が3校あり、幼児児童生徒が約3,000人通っています。今後は、3つの公立中学校区における小中一貫校の開校に向けて、計画的に進める予定です。

2 かとう夢プランについて

本市では、特に重点的に取り組んでいく事業を加東の教育「かとう夢プラン」と位置づけ推進しています。その中で、加東市教育大綱にも掲げている主な事業を紹介します。

(1) 小中一貫教育の推進について

2021年度の東条地域小中一貫校の開校に

兵庫県加東市教育委員会

向けて、開校準備委員会を設立し、校舎等の設計について、地域や保護者、学校関係者との調整を行っています。また、小中9年間を見通した系統性のある指導を行うために、教科カリキュラムの作成や「ふるさと学習」の副読本の編集に着手しています。さらに、小中学校間で出前授業を実施するとともに、小学校間の児童交流も計画的に進めています。

(2) 発達サポートセンター「はぴあ」の運営について



障害のある子供を含むすべての子供に対して、個々の教育的ニーズに合った切れ目のない支援を行う新たな仕組みとして、支援に関する業務（教育・福祉・保健・就

労等）を集約した発達サポートセンターを昨年6月に開設しました。開設までは、福祉部や教育委員会等で別々に相談を受けていましたが、本施設で相談業務を一本化したことも功を奏し、11月末現在の相談件数が約1,300件となり、平成28年度の同時期よりも増えています。

(3) 英語教育の推進

中学生の英語によるコミュニケーション能



力を高めるため、「かとう英語ライセンス」を実施しています。中学校の英語教員や ALT（外国語指導助手）の協力を得て作成した、本市オリジナルの英語副読本「かとう英語ライセンス・レッスンブック」を授業で活用しています。レッスンブックには、市内の名所や加東市の姉妹都市ワシントン州オリンピア市が登場しており、日常会話でよく使われる英語や知っておくと役に立つ英語をたくさん取り入れています。また、「かとう英語ライセンス検定」の実施により、身近な話題で日常会話ができる程度の英語力育成をめざしています。

さらに、本市では、実用英語技能検定（英検）の検定料を中学生一人につき年1回全額助成し、生徒の学習意欲の向上につなげています。

(4) ICT 教育の充実

平成 27 年度文部科学省の調査結果をもとに日経 BP が算出したランキングにおいて、兵庫県下で ICT の整備率等が第 1 位となった本市では、子供たちの学習意欲の向上や情報活用能力のさらなる育成を図るため、電子黒板の増設、タブレットパソコンの計画的な導入等、ICT 関連機器の整備に引き続き取り組んでいます。また、研究推進校を指定し、ICT を効果的に活用した授業実践を行っています。

(5) 食育の推進

児童生徒の望ましい食習慣の形成を図るため、市内に研究校 2 校を指定し、栄養教諭や



栄養士を有効に活用し、地域の人や食材、食文化を体験的に学ぶ食育を進めています。学校給食においては、地産地消で特色のある献立内容を考案し、月に 1 回「楽しみのある学校給食特別メニュー」を提供しています。また、「かとう和食の日」を設け、家庭や地域住民、高校等と連携し、様々な体験活動を実施しています。

3 おわりに

国立大学法人兵庫教育大学が地元であり、教育分野をはじめ、地域福祉や産業振興、国際交流等の様々な分野において、大学教員や学生との交流を積極的に実施していることは、本市の特色です。また、「おとどけ図書館」や「おでかけ図書館」により、市内小中学校と連携を図っている加東市立図書館は、11 年連続で図書の貸出密度（人口 4 万未満）が全国 1 位となっています。今後も子供たちのために教育環境を整え、人間力の育成に向けて、学校・家庭・地域が一体となって取り組んでいきたいと考えています。



教育長
藤本謙造